

# 流体制御用2・3ポートバルブ 機種選定ガイド①

最高作動圧力差・使用温度範囲等の製品仕様は各掲載ページでのご確認をお願いいたします。

## 空気・不活性ガス

流体	操作方式	シリーズ名	特記	対応接続口径				
				ワンタッチ管継手				
				— M5	6 1/8	8 1/4		
空気・ 不活性ガス	直動	VDW		φ3.2, φ4, φ6	●	●	●	
		VX2		φ6, φ8, φ10, φ12		●	●	
		VXK2					●	●
		VXE	低ワット・DCのみ				●	●
		VX3					●	●
	パイロット	VXD			φ10, φ3/8", φ12			●
		VXZ	差圧0作動		φ10, φ3/8", φ12			●
		VXP						●
		VQ20・30	乾燥空気用		φ6, φ8, φ10, φ12			
	外部パイロット ピストン	VNA					●	●
VNB						●	●	



VDW Series



VX2 Series



VXK2 Series



VXE Series



VX3 Series

## 真空

流体	操作方式	シリーズ名	特記	対応接続口径				
				ワンタッチ管継手				
				— M5	6 1/8	8 1/4		
真空	低真空	直動	VDW		●	●	●	
			VX2			●	●	●
			VXK2				●	●
			VX3-VXV3				●	●
	中真空	直動	VDW		●	●		
			VX2			●	●	
			VX3	オプション:V, M選択			●	●
		外部パイロットピストン	VNB				●	●
	高真空	外部パイロットピストン	XL					
			XM/XY					
XVD			流量調整					



VDW Series



VXV3 Series

# 機種選定ガイド

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10	15	20	25	32	40	50	32	40	50		
3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		
●	●										
●											
●	●										
●	●										
●	●	●	●				●	●	●		
●	●	●	●								
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	



VXD Series



VXZ Series



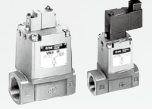
VXP Series



VQ20-30 Series



VNA Series



VNB Series

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10	15	20	25	32	40	50	32	40	50		
3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		
●	●										
●											
●											
●	●										
●	●										
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

真空KF 16/25/40/50/63/80 K63/80  
真空KF 16/25/40/50/63/80 K63/80  
VCR®用1/4、Swagelok®用1/4



XL Series



XM/XY Series



XVD Series

# 流体制御用2・3ポートバルブ 機種選定ガイド②

最高作動圧力差・使用温度範囲等の製品仕様は各掲載ページでのご確認をお願いいたします。

## 水

流体	操作方式	シリーズ名	特記	対応接続口径			
				ワンタッチ管継手	—	6	8
					M5	1/8	1/4
水	直動	<b>VDW</b>		ø3.2, ø4, ø6	●	●	●
		<b>VX2</b>			●	●	
		<b>VXK2</b>			●	●	
		<b>VXE</b>	低ワット・DCのみ		●	●	
		<b>VX3</b>			●	●	
	直動パイロット	<b>VXD</b>				●	
		<b>VXZ</b>	差圧0作動			●	
		<b>VXP</b>					●
		<b>VXR</b>	水撃対応				
		<b>VXH</b>	ACのみ 2.0MPa以下				●
外部パイロットピストン	<b>VNB</b>				●	●	

## 温水

流体	操作方式	シリーズ名	特記	対応接続口径			
				ワンタッチ管継手	—	6	8
					M5	1/8	1/4
温水	直動	<b>VX2</b>			●	●	
		<b>VXK2</b>			●	●	
		<b>VX3</b>	オプション:E/P選択		●	●	
	直動パイロット	<b>VXD</b>					●
		<b>VXZ</b>	差圧0作動、オプション				●
		<b>VXP</b>	オプション:E/P選択				●
		<b>VXR</b>	水撃対応、オプション:D選択				
	外部パイロットピストン	<b>VNB</b>				●	●



VDW Series



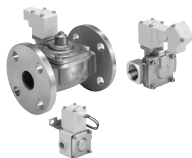
VX2 Series



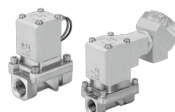
VXK2 Series



VXE Series



VXD Series

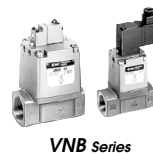


VXZ Series

# 機種選定ガイド

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10 3/8	15 1/2	20 3/4	25 1	32 1 1/4	40 1 1/2	50 2	32 1 1/4	40 1 1/2	50 2		
											P.371
●	●										P.27
●											P.73
●	●										P.190
●											P.306
●	●	●	●				●	●	●		P.101
●	●	●	●								P.152
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		P.243
●	●	●	●	●	●	●					P.255
●	●										P.265
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	P.476

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10 3/8	15 1/2	20 3/4	25 1	32 1 1/4	40 1 1/2	50 2	32 1 1/4	40 1 1/2	50 2		
●	●										P.27
●											P.73
●											P.306
●	●	●	●				●	●	●		P.101
●	●	●	●								P.152
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		P.243
	●	●	●	●	●	●					P.255
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	P.476



# 流体制御用2・3ポートバルブ 機種選定ガイド③

最高作動圧力差・使用温度範囲等の製品仕様は各掲載ページでのご確認をお願いいたします。

## 油

流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				—	6	8	
				M5	1/8	1/4	
油	直動	VX2			●	●	
		VXK2			●	●	
		VXE	低ワット・DCのみ、オプション:A/H選択		●	●	
		VX3	オプション:A/D/H/N選択		●	●	
	直動パイロット	VXH	ACのみ 1.5MPa以下				●
		VXD					●
		VXZ	差圧0作動				●
		VXP	オプション:A/D/H/N選択				●
		VXR	水撃対応、オプション:A/D選択				●
		VNA				●	●
外部パイロットピストン	VNB				●	●	

## 蒸気

流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				—	6	8	
				M5	1/8	1/4	
蒸気	直動	VX2			●	●	
		VXK2			●	●	
		VX3	オプション:S/Q選択		●	●	
		VXS				●	
	直動パイロット	VXP	オプション:S選択				●
	外部パイロットピストン	VND					●



VX2 Series



VXK2 Series



VXE Series



VXS Series



VXP Series



VXR Series



VNA Series

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10	15	20	25	32	40	50	32	40	50		
3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		
●	●										
●											
●	●										
●	●										
●	●										
●	●	●	●				●	●	●		
●	●	●	●	●							
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)							フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
10	15	20	25	32	40	50	32	40	50		
3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		
●	●										
●											
●											
●	●	●	●								
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	



# 流体制御用2・3ポートバルブ 機種選定ガイド④

最高作動圧力差・使用温度範囲等の製品仕様は各掲載ページでのご確認をお願いいたします。

## 高圧圧縮空気

流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				—	6	8	10
				M5	1/8	1/4	3/8
高圧圧縮空気	直動	<b>VXE</b>	低ワット・DCのみ 3.0MPa以下		●		
		<b>VXH</b>	ACのみ 2.0MPa以下			●	●
	パイロット	<b>VCH40</b>	Gねじ 5.0MPa以下				
		<b>VCH400</b>					

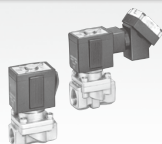
※Gねじのみ

## クーラント

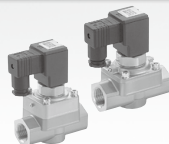
流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				—	6	8	10
				M5	1/8	1/4	3/8
クーラント	外部パイロットピストン	<b>SGC</b>					●
		<b>SGH</b>					●
		<b>VNC</b>		●	●	●	●
		<b>VNH</b>					●



VXE Series



VXH Series



VCH40 Series



VCH400 Series

## 薬液・純水

流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				—	6	8	10
				M5	1/8	1/4	3/8
薬液・純水	パイロット	<b>LV</b>	めねじ・継手付選択可		●	●	●
	直動	<b>LVM</b>	継手付・めねじ選択可	●※			

※直接配管：M5・ベース配管：M6

## 集塵機

流体	操作方式	シリーズ名	特記				
				20	25	40	50
				3/4	1	1 1/2	2
集塵機	直動パイロット	<b>VXF2</b>	集塵機専用	●	●	●	●

対応接続口径										掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)					フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)					
15	20	25	32	40	50	32	40	50		
1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		P.190
●										P.265
	●*	●*								P.357
●*	●*	●*								P.362

対応接続口径											掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)						フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)					
15	20	25	32	40	50	32	40	50	65	80	
1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2	2 1/2	3	P.484
●	●	●									P.509
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	P.528
●	●	●									P.538



SGC Series



SGH Series



VNC Series



VNH Series

対応接続口径										掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)					フランジ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)					
15	20	25	32	40	50	32	40	50		
1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2	1 1/4	1 1/2	2		P.592
●	●	●								P.437

対応接続口径				掲載ページ
ねじ継手(呼び径A/上段、呼び径B/下段)				
65	80	90	100	
2 1/2	3	3 1/2	4	P.267
●	●	●	●	



LV Series



LVM Series



VXF2 Series



# 電磁弁流量特性 (流量特性の表示方法)

## 1. 流量特性の表示

電磁弁などの機器の仕様欄における流量特性の表示は、表1によります。

表1. 流量特性の表示

対象機器	国際規格による表示	他の表示	準拠規格
空気圧用機器	$C, b$	—	ISO 6358:1989 JIS B 8390:2000
	—	$S$	JIS B 8390:2000 機器: JIS B 8373, 8374, 8375, 8379, 8381
		$C_v$	ANSI/(NFPA)T3.21.3:1990
プロセス流体用機器	$A_v$	—	IEC60534-2-3:1997 JIS B 2005:1995
	—	$C_v$	機器: JIS B 8471, 8472, 8473

## 2. 空気圧用機器

### 2.1 国際規格による表示

#### (1) 準拠規格

ISO 6358:1989 : Pneumatic fluid power-Components using compressible fluids-Determination of flow-rate characteristics

JIS B 8390:2000 : 空気圧-圧縮性流体用機器-流量特性の試験方法

#### (2) 流量特性の定義

音速コンダクタンス  $C$  と臨界圧力比  $b$  の対によって、流量特性を表示します。

音速コンダクタンス  $C$  : チョーク流れ状態の機器の通過質量流量を、上流絶対圧力と標準状態の密度の積で割った値。(sonic conductance)

臨界圧力比  $b$  : この値より小さいとチョーク流れになる圧力比(下流圧力/上流圧力)。(critical pressure ratio)

チョーク流れ : 上流圧力が下流圧力に対して高く、機器のある部分で速度が音速に達している流れ。気体の質量流量は上流圧力に比例し、下流圧力には依存しない。(choked flow)

亜音速流れ : 臨界圧力比以上における流れ。(subsonic flow)

標準状態 : 温度20℃、絶対圧力0.1MPa(=100kPa=1bar)、相対湿度65%の空気の状態。空気量の単位の後に略号(ANR)をつけて表記する。(standard reference atmosphere)

準拠規格 : ISO 8778:1990 Pneumatic fluid power-Standard reference atmosphere, JIS B 8393:2000 : 空気圧-標準参考空気

#### (3) 流量計算式

実用単位により次のように表されます。

$\frac{P_2+0.1}{P_1+0.1} \leq b$  のとき、**チョーク流れ**

$$Q = 600 \times C(P_1+0.1) \sqrt{\frac{293}{273+t}} \dots\dots\dots(1)$$

$\frac{P_2+0.1}{P_1+0.1} > b$  のとき、**亜音速流れ**

$$Q = 600 \times C(P_1+0.1) \sqrt{1 - \left[ \frac{P_2+0.1}{P_1+0.1} - b \right]^2} \sqrt{\frac{293}{273+t}} \dots\dots\dots(2)$$

$Q$  : 空気流量 [dm<sup>3</sup>/min (ANR)]、SI単位のdm<sup>3</sup>(立方デシメートル)は、L(リットル)で表してもよいことになっています。1dm<sup>3</sup>=1L。

$C$  : 音速コンダクタンス [ $\text{dm}^3/(\text{s}\cdot\text{bar})$ ]

$b$  : 臨界圧力比 [-]

$P_1$  : 上流圧力 [MPa]

$P_2$  : 下流圧力 [MPa]

$t$  : 温度 [ $^{\circ}\text{C}$ ]

注) 亜音速流れの式は楕円近似曲線です。

流量特性線図を図1に示します。詳しくは、当社の「省エネプログラム」をご利用ください。

例)

$C=2[\text{dm}^3/(\text{s}\cdot\text{bar})]$ 、 $b=0.3$ の電磁弁で $P_1=0.4[\text{MPa}]$ 、 $P_2=0.3[\text{MPa}]$ 、 $t=20[^{\circ}\text{C}]$ のときの空気流量を求めます。

$$\text{式(1)より最大流量} = 600 \times 2 \times (0.4 + 0.1) \times \sqrt{\frac{293}{273 + 20}} = 600 [\text{dm}^3/\text{min}(\text{ANR})]$$

$$\text{圧力比} = \frac{0.3 + 0.1}{0.4 + 0.1} = 0.8$$

図1より圧力比0.8で $b=0.3$ の流量比を読み取ると0.7。

流量 = 最大流量  $\times$  流量比 =  $600 \times 0.7 = 420 [\text{dm}^3/\text{min}(\text{ANR})]$ となる

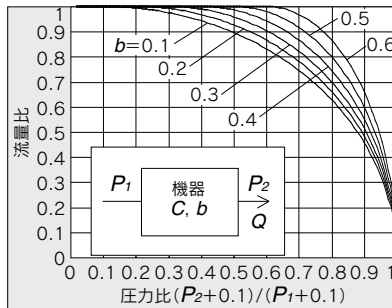


図1. 流量特性線図

#### (4) 試験方法

図2に示す試験回路に供試機器を配管接続し、上流圧力を0.3MPaを下回らない一定値に維持しつつ、まず飽和する最大流量を測定します。次いでこの流量の80%、60%、40%、20%点の流量と上流圧力、下流圧力を測定します。

そして、この最大流量から音速コンダクタンス $C$ を算出します。また他の各データを亜音速流れの式に代入して $b$ を算出し、その平均値から臨界圧力比 $b$ を求めます。

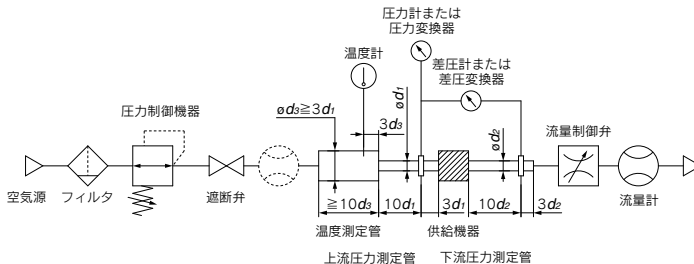


図2. ISO6358, JIS B 8390 の試験回路

# 電磁弁流量特性

## 2.2有効断面積S

### (1) 準拠規格

JIS B 8390:2000：空気圧-圧縮性流体用機器-流量特性の試験方法

機器規格：JIS B 8373：空気圧用2ポート電磁弁

JIS B 8374：空気圧用3ポート電磁弁

JIS B 8375：空気圧用4ポート、5ポート電磁弁

JIS B 8379：空気圧用消音器

JIS B 8381：空気圧用たわみ管の管継手

### (2) 流量特性の定義

有効断面積S：空気タンクに取付けた機器からチョーク流れの状態で圧縮空気を放出したとき、空気タンク内の圧力変化から計算で導いた摩擦や縮流のない理想的な絞りの断面積。音速コンダクタンスCと同じ「流れやすさ」を代表する概念です。(effective area)

### (3) 流量計算式

$\frac{P_2+0.1}{P_1+0.1} \leq 0.5$  のとき、**チョーク流れ**

$$Q = 120 \times S (P_1 + 0.1) \sqrt{\frac{293}{273 + t}} \dots\dots\dots (3)$$

$\frac{P_2+0.1}{P_1+0.1} > 0.5$  のとき、**亜音速流れ**

$$Q = 240 \times S \sqrt{(P_2 + 0.1) (P_1 - P_2)} \sqrt{\frac{293}{273 + t}} \dots\dots\dots (4)$$

音速コンダクタンスCとの換算：

$$S = 5.0 \times C \dots\dots\dots (5)$$

Q：空気流量 [dm<sup>3</sup>/min (ANR)]、SI単位のdm<sup>3</sup>(立方デシメートル)は、L(リットル)で表してもよいことになっています。1dm<sup>3</sup>=1L。

S：有効断面積 [mm<sup>2</sup>]

P<sub>1</sub>：上流圧力 [MPa]

P<sub>2</sub>：下流圧力 [MPa]

t：温度 [°C]

注) 亜音速流れの式(4)は、臨界圧力比bが不明の機器にのみ適用されます。音速コンダクタンスCによる式(2)において、b=0.5の場合と同一の式です。

### (4) 試験方法

図3に示す試験回路に供試機器を配管接続し、0.6MPaを下回らない一定圧力(0.5MPa)に圧縮空気が充填された空気タンクから、空気タンク内圧力が0.25MPa(0.2MPa)に下がるまで空気を大気に放出します。この時の放出時間と定常値になるまで放置した後の空気タンク内の残存圧力を測定し、次の式により有効断面積Sを算出します。空気タンクの容積は供試機器の有効断面積に対応して規定の範囲で選定します。

JIS B 8373, 8374, 8375, 8379, 8381の場合、圧力値はカッコ内、式の係数は12.9です。

$$S = 12.1 \frac{V}{t} \log_{10} \left( \frac{P_s + 0.1}{P + 0.1} \right) \sqrt{\frac{293}{T}} \dots\dots\dots (6)$$

S：有効断面積 [mm<sup>2</sup>]

V：空気タンク容積 [dm<sup>3</sup>]

t：放出時間 [s]

P<sub>s</sub>：放出前の空気タンク内圧力 [MPa]

P：放出後の空気タンク内残存圧力 [MPa]

T：放出前の空気タンク内温度 [K]

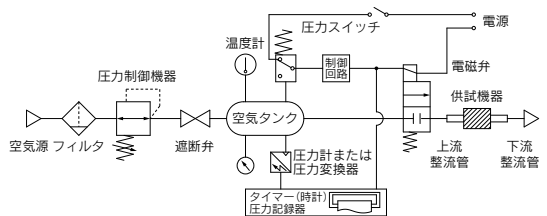


図3. JIS B 8390 の試験回路

### 2.3 容量係数 $C_v$ 値

アメリカ規格ANSI/(NFPA)T3.21.3:1990:Pneumatic fluid power-Flow rating test procedure and reporting method-For fixed orifice components

は、ISO6358と類似する試験回路における試験により、容量係数 (flow coefficient)  $C_v$  値を次の式で定義しています。

$$C_v = \frac{Q}{114.5 \sqrt{\frac{\Delta P (P_2 + P_a)}{T_1}}} \dots\dots\dots (7)$$

$\Delta P$  : 静圧取出口間の圧力降下 [bar]

$P_1$  : 上流取出口の圧力 [barゲージ]

$P_2$  : 下流取出口の圧力 [barゲージ] :  $P_2 = P_1 - \Delta P$

$Q$  : 流量 [dm<sup>3</sup>/s標準状態]

$P_a$  : 大気圧 [bar絶対]

$T_1$  : 上流絶対温度 [K]

試験条件は、 $P_1 + P_a = 6.5 \pm 0.2$  bar絶対、 $T_1 = 297 \pm 5$  K、 $0.07 \text{ bar} \leq \Delta P \leq 0.14$  barです。

これは、圧力降下が上流圧力に対して小さく、空気の圧縮性が問題とならない場合にも適用するとしてISO6358に記載している有効流路面積 (effective area)  $A$  と同様の概念です。

### 3. プロセス流体用機器

#### (1) 準拠規格

IEC60534-2-3:1997 : Industrial-process control valves. Part 2:Flow capacity, Section Three-Test procedures

JIS B 2005:1995 : バルブの容量係数の試験方法

機器規格 : JIS B 8471 : 水用電磁弁

JIS B 8472 : 蒸気用電磁弁

JIS B 8473 : 燃料油用電磁弁

#### (2) 流量特性の定義

$A_v$  値 : 圧力差が1Paのとき、バルブ (供試機器) を流れる上水の流量をm<sup>3</sup>/sで表す数値。次の式によって算出します。

$$A_v = Q \sqrt{\frac{\rho}{\Delta P}} \dots\dots\dots (8)$$

$A_v$  : 容量係数 [m<sup>2</sup>]

$Q$  : 流量 [m<sup>3</sup>/s]

$\Delta P$  : 圧力差 [Pa]

$\rho$  : 流体の密度 [kg/m<sup>3</sup>]

#### (3) 流量計算式

実用単位により次のように表されます。また、流量特性線図を図4に示します。

液体の場合 :

$$Q = 1.9 \times 10^6 A_v \sqrt{\frac{\Delta P}{G}} \dots\dots\dots (9)$$

$Q$  : 流量 [L/min]

$A_v$  : 容量係数 [m<sup>2</sup>]

$\Delta P$  : 圧力差 [MPa]

$G$  : 比重 [水=1]

飽和水蒸気の場合 :

$$Q = 8.3 \times 10^6 A_v \sqrt{\Delta P (P_2 + 0.1)} \dots\dots\dots (10)$$

$Q$  : 流量 [kg/h]

$A_v$  : 容量係数 [m<sup>2</sup>]

$\Delta P$  : 圧力差 [MPa]

$P_1$  : 上流圧力 [MPa] :  $\Delta P = P_1 - P_2$

$P_2$  : 下流圧力 [MPa]

# 電磁弁流量特性

容量係数の換算：

$$Av = 28 \times 10^{-6} Kv = 24 \times 10^{-6} Cv \dots\dots\dots (11)$$

ここに、

**Kv**値：圧力差が1barのとき、バルブを流れる5～40℃の温度の上水の流量をm<sup>3</sup>/hで表す数値。

**Cv**値(参考値)：圧力差が1lbf/in<sup>2</sup>(psi)のとき、バルブを流れる60°Fの温度の上水の流量をUS gal/minで表す数値。

です。空気用の**Kv**、**Cv**とは試験方法が異なるので数値は一致しません。

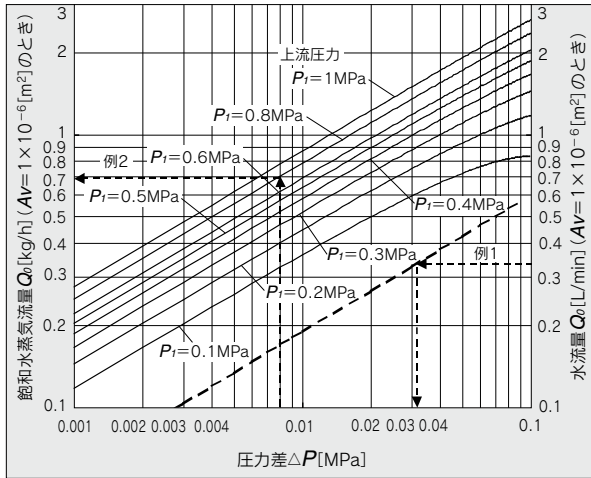


図4.流量特性線図

例1)

$Av = 45 \times 10^{-6} [m^2]$ の電磁弁を15 [L/min]の水が流れるときの圧力差を求める。  
 $Q_0 = 15/45 = 0.33 [L/min]$ であるから、図より $Q_0$ が0.33のときの $\Delta P$ を読み取ると0.031 [MPa]となる。

例2)

$Av = 1.5 \times 10^{-6} [m^2]$ の電磁弁で $P_i = 0.8 [MPa]$ 、 $\Delta P = 0.008 [MPa]$ のときの飽和水蒸気の流量を求める。  
 図より $P_i$ が0.8で $\Delta P$ が0.008のときの $Q_0$ を読み取ると0.7 [kg/h]であるから、流量 $Q = 0.7 \times 1.5 = 1.05 [kg/h]$ となる。

#### (4) 試験方法

図5に示す試験回路に供試機器を配管接続し、5～40℃の水を流して圧力差0.075MPaにおける流量を測定します。ただし、レイノルズ数が $4 \times 10^4$ を下回らない範囲に圧力差を大きく設定する場合があります。測定結果を式(8)に代入して $Av$ を算出します。

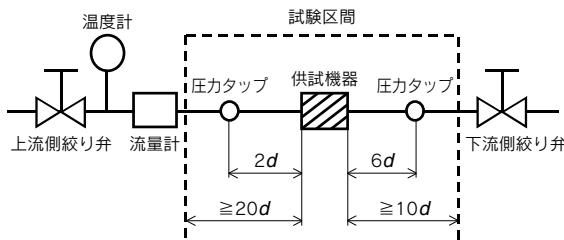
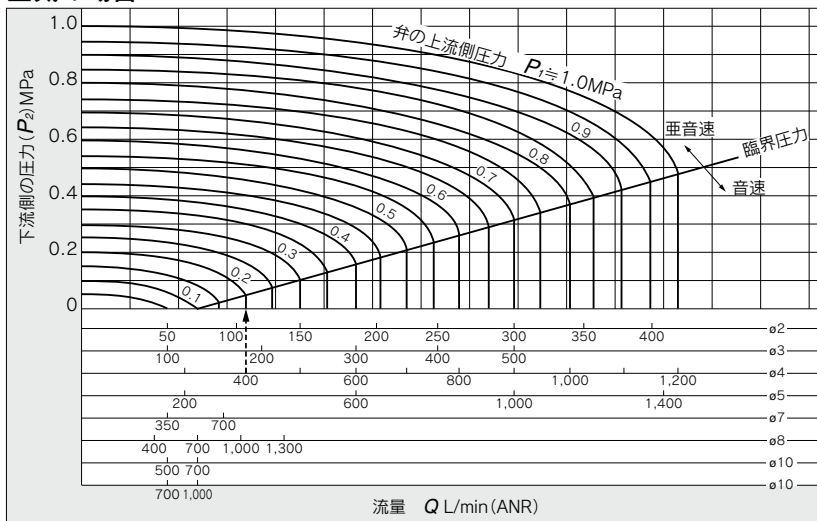


図5.IEC60534-2-3, JIS B 2005による試験回路

# 流量特性表

注) この表は、目安として使用してください。正確な流量を求める場合は、P.10~14をご参照願います。

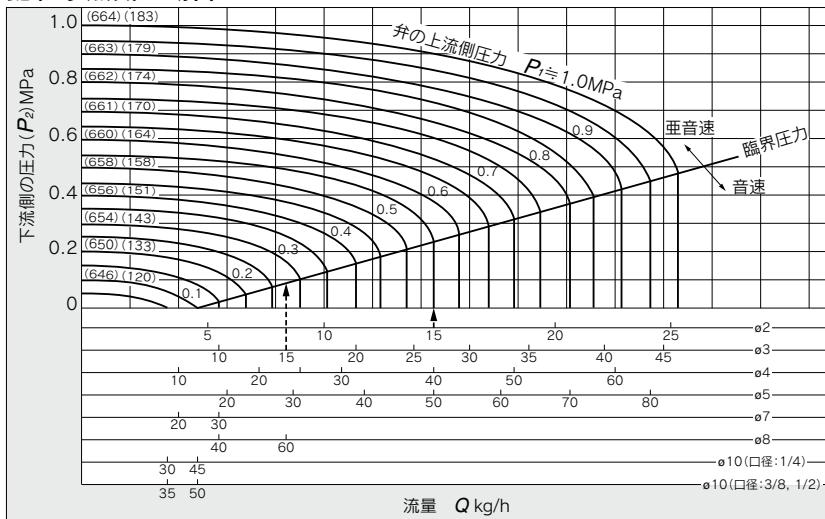
## 空気の場合



### 図の見方

流量400L/min (ANR) を流すための音速領域での圧力はオリフィス径o4は $P_1 \approx 0.2 \text{ MPa}$ 、オリフィス径o3は $P_1 \approx 0.58 \text{ MPa}$ となります。

## 飽和水蒸気の場合

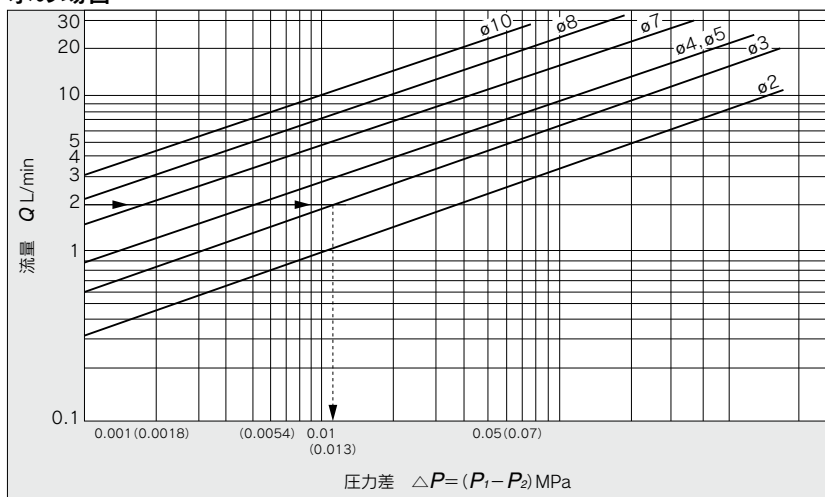


### 図の見方

流量15kg/h流すための音速領域での圧力はオリフィス径o2は $P_1 \approx 0.55 \text{ MPa}$ 、オリフィス径o3は $P_1 \approx 0.28 \text{ MPa}$ となります。保有熱量は圧力 $P_1$ により多少異なりますが、15kg/hでは約9700kcal/hの熱量となります。

# 流量特性表

## 水の場合



### 図の見方

2L/minの水を流した時、オリフィス径 $\phi 3$ のバルブでは $\Delta P \approx 0.013$ MPaとなります。